

ブック村だより

本学コレクション紹介 (30)

- ルソー 『政治経済論』⑤ 森岡 邦泰(1)
 人との出会い、本との出会い..... 宮坂 朋幸(2)
 ぶっくす・なう..... (4)
- 北村薫『太宰治の辞書』および
 「円紫さん」シリーズ 谷岡 一郎
 『イスラム飲酒紀行』 塩田 眞典
 『サル：その歴史・文化・生態』 下山 晃
 『旅人—ある物理学者の回想—』 河辺 純
- 学生選書スタッフ 2015年度上半期活動報告..... (6)
 使ってみよう「My OPAC」..... (7)
 インフォメーション・開館案内..... (8)



フランス百科全書図版集 本巻第1巻 大阪府立中央図書館所蔵

本学コレクション紹介 (30) ルソー『政治経済論』⑤

ルソーは「政治経済論」を百科全書の項目として書いたが、その編集者がディドロとダランベールである。

ダランベールの名は、理系の学生なら必ず聞いたことがあるだろう。初年級必修科目の微積分では「ダランベールの判定法」（無限級数の収束判定）を習うし、微分方程式を勉強すれば、波動方程式（偏微分方程式の一つ）の「ダランベールの解」に出会うだろうし、物理では「ダランベールの原理」にお目にかかる。ダランベールは27歳でベルリン・アカデミーの会員になった数学の天才であった。

ダランベールは貴族の私生児で、生後数時間で教会の入口に捨てられた。当時の貴族社会では結婚は財産の釣合で決まり、処女は結婚の絶対条件だったが、子供を作るという義務を果たしたあとはフリーだったという。そのためカパリの巷には捨て子や里子があふれていた。社交界で奔放な母親はダランベールに無関心であったが、父親の軍人は、子供の存在を知ると養育をガラス職人の妻に依頼し、一生生活していけるだけの年金も用意してくれた。長じて百科全書の編集を引き受けたダランベールは、持てる人脈を駆使して刊行に尽力した。

(経済学部 准教授 森岡 邦泰)

人との出会い、本との出会い

総合経営学部 経営学科 宮坂 朋幸

皆さんはこれまでに「いい先生」には出会えましたか？その先生はあなた以外のすべての生徒にとっても「いい先生」でしたか？

教育学、特に教員の歴史について研究し、教職科目を担当していると、「いい先生」とはどんな先生なのか、考えたり、問われたりする機会が多々あります。そんな時にいつも思い出すのが『先生はえらい』（ちくまプリマー新書）です。

この本は「『誰にとっても、いい先生』などというものには存在するはずがない」、「『いい先生』というのはみなさんが会う前にあらかじめ存在するものではない」という確認から始まります。そんな文章を読み進めるうちに、私はとても不思議な感覚に襲われました。自分ではこれまでしっかり考えてこなかったけれど、ぼんやりとは思っていたのかもしれないことがここに文字で表現されているのではないか、という感覚です。

そして、読みやすい会話体で書かれた170ページほどのこの本を読み終えた時、「あなたが『えらい』と思った人、それがあなたの先生である」というなんだか当たり前のように聞こえる言葉がストンと胸に落ちたのでした。さらに、近代教員史を専攻する大学院生であった私にとって、「『先生』は既製品ではない」という言葉は、日本が近代以降に人為的に作り出そうとした「教員」を批判的に考える際の良い補助線になりました。

ではなぜこのような本に出会えたのか。それは、同じ著者の別の本を読んでいたからです。当時私は、「すべての学問の基礎は歴史と哲学だ」と信じ

て、自分の専門である歴史だけでなく、哲学も学ばなければと思っていました。勤めていた会社を辞めて大学院に戻ったためか、「大学院生かくあるべし！」と、かなり背伸びをしていた私は、それらしきタイトルの本や高名な学者が書いた本などを目につくままに手に取っていました。しかしそれらの本は大抵かなり難解で、最初こそ気合を入れて読み始めてみても、徐々にペースが落ち、結局は書棚に帰っていく…という挫折経験を繰り返すことになっていました。

そんなある時、同じ大学院の後輩から「これ、おもしろいっすよ」と一冊の本を紹介されました。彼とは、専門分野こそ異なっていましたが、読書傾向が似ていたのでよく本の話をしていたのです。その時薦められたのが『寝ながら学べる構造主義』（文春新書）でした。フランス現代思想を専攻する著者が、入門者のために「ふつうのことば」で書いた平易な解説書とまえがきで述べているように、簡単ではないけれど分かりやすい言葉遣いによって「構造主義の四銃士」の難解な思想を解説してくれていました。圧巻は「(レヴィ=ストロースの) この批判は戦後のあらゆる論争を勝ち続けてきた『常勝』のサルトルを一刀両断にしました」の部分。何度も前後を読み返して、わかった気になって興奮していました。

偉大な思想家たちの思想関係図を、古今東西のたとえ話をふんだんに織り交ぜながら軽やかに描き出す手法は、初学者の私にとって確かに「敷居が低い」入門書でした。ただ、あとがきの「レヴィ=ス

トロースは要するに『みんな仲良くしようね』と言っており、バルトは『ことばづかいで人は決まる』と言っており、ラカンが『大人になれよ』と言っており、フーコーは『私はバカが嫌いだ』と言っているのです」というまとめにはいったん爆笑してはみたものの、思わず眉に唾をつけたくなりました。しかし、それによって再度本文を読み返してみたり、他の本を読んだりしたことを考えれば、「入門者のための解説書」としての役割は十分果たしていたのだと言えます。

このように、専攻の異なる後輩からの推薦によって出会った本にすっかりはまってしまった私は、この著者の他の本も読んでみたいと思いました。そんな読書生活の中の一冊に『先生はえらい』もあったのです。

『先生はえらい』の他の同著者の本以外にも、その著者が参照した本、その本の著者の別の本、それらの本の中で自分にヒットしたキーワードに関わる本や、ちくまプリマー新書の別の本など、様々な関連本とも出会うことができました。「先生を求めて長く苦しい旅をした人間だけに、先生と出会うチャンスは訪れます」（『先生はえらい』）。「いい本」も同じなのです。

*

今回この小文を書くにあたって、いくつかの本を読み返してみました。何回読んでも新たな発見があるもので、これもまた楽しい読書でした。また、当時せっかく読む気になっていたのにまだ読んでいなかった本に気づいて、さっそくアマゾンで注文したりもしました。アマゾンはとても便利ですね。読みたい本がすぐに手元に届きますし、これまでに検索や注文をした本と関連する本を紹介してくれます。しかし、この関連本の紹介は「これも買って!」と

いう押し売りのようなメッセージのように見えるので、私にはうるさく感じられます。それはおそらく私ももっと奥ゆかしい提案のされ方に慣れているからだと思います。私が慣れているのは、自分が関心を持った本の周辺にさりげなく（もちろんホントはかなり規則的に）さらに関心を持ちそうな本を並べてくれている奥ゆかしい提案方法。そう、図書館の書棚なのです。

特に大学図書館には多くの専門書が並んでいます。自分が目指す本を探しながら書棚を眺めていると、周辺の本にもつい目が行きます。その本を手にとってみると、時に意外な出会いがあります。「自分が知りたかったことはこれだ!」とか「これって自分がずっと考えていたことじゃないか!」という言葉との出会いです。

自分の関心は、常に明確な言葉で自覚されているとは限りません。その関心を的確に表現する言葉をまだ知らないことも十分にあり得るからです。これだけインターネットが普及すると、ネット検索をすればどんな解答でも得られるのだと考えてしまいがちです。しかし、まだ自分が知らない言葉をネットで検索することはできません。ネット検索では、自分が知っている言葉しか知ることができないのです。でも図書館は違います。図書館に行って書棚を眺めてみれば、自分が知らなかった自分の関心を、新たな言葉とともに知ることが出来るのです。

自分の関心にバッチリ合っているのにそれまでの自分が知らなかった言葉に出会えた時、皆さんの知的な世界は劇的な拡がりを見せるはずですよ。さあ、皆さんも図書館に行って書棚を眺めてみましょう。

『先生はえらい』『寝ながら学べる構造主義』は、2階「ブック村だより」コーナーに配置しています。

北村薫『太宰治の辞書』および「円紫さん」シリーズ

(新潮社, 2015.3)
北村 薫 著

実を言えばこのコーナーで過去に、北村薫の別のシリーズ（「ベッキーさん」シリーズ）を取上げたことがあります。その時にも言及したのですが、「円紫さんモノ」（と呼ばれる）名前の知れない「私」という人間が語り手のシリーズこそ、北村薫の真骨頂。優雅で美しい文章で綴られた日常の謎を扱った心温まる中編、長編計6冊です。文章のお手本としても、是非手に取っていただきたい作家の代表です。

今回、約20年ぶりに新刊『太宰治の辞書』が出たこの機会に、紹介させてもらうことにしましたが、読むなら『空飛ぶ馬』から年代順に願います（図書館にあります）。なぜなら、語り手の「私」が一冊ごとに成長していくからなのです。特に約20

年前に『朝霧』で、4年間の学生生活を終えた「私」は、就職が決まって一旦シリーズが終わったかに見えましたが（たぶん作者もその予定だったでしょう）。しかし20年経って家庭を持った主人公が今年帰って来たのです。

久々の新刊は、本が大好きという人におすすめです。謎解きを楽しむ本ではないのですが、そこは北村薫、一気に読ませる力強さは相変わらずです。本書を通して人間が成長し、家庭を持ったとき、「私」の考え方がどう変化したのかを考えてみて下さい。皆さんにもいつか来る道ですよ。

(学長 谷岡 一郎)



『イスラム飲酒紀行』

(講談社文庫, 2014.7)
高野 秀行 著

戒律の厳しいイスラム社会では飲酒は禁じられているはずだが…実は飲まれているらしいとの噂はよく耳にする。実態はどうか？本書は酒好きのルポライター高野秀行氏によるイスラム圏諸国飲酒実態報告書である。とても愉快的書だ。

各章「わたしは酒好きである。休肝日はまだない」と文豪風の書き出しで始まる。とにかく、どこへ行ってもお酒が飲みたいというわけで、飲めないはずの社会で酒を探し入手する。密造酒、密輸された酒、種類もワイン、ビールその他多種多様、探せば出てくる。公共空間では禁じられていても、国により程度差はあるものの、私的空間では大目にみられているようなのだ。まずは、ホテルの個室で飲む。しかし何か飽き足りない。そう、酒好きの常で、著者も皆でワイワイ飲みたい

のだ。イスラム社会の庶民の本音に触れたたい、それは魅力的な取材対象でもあるから。かくして、もぐり酒場探訪記と相成る。それは公共空間でも私的空間でもない第三の居場所、半ば閉じられた本音の共同空間である。

禁酒という建前、しかし飲みたいという本音。どの社会でも建前と本音の使い分けは多様で面白い。例えば、パキスタンでは「この病気の治療にはアルコールが必要」との医師の診断書を持参すれば酒を購入できるらしい。笑ってしまう。しかし、わが国でも江戸時代、薬食いの名目で禁じられていた鹿や猪の肉を食していた事実に思い当たった。

(図書館長 塩田 真典)



『サル: その歴史・文化・生態』

(白水社, 2015.9)
デズモンド・モリス 著 伊達 淳 訳

「全てのヒトが今、いちばん真剣に考えなくてはならないことは何か？」という、一見単純な問いには、実はいくつもの難題がふくまれている。

ヒトそれぞれ、さまざまな事柄を「いちばん大事なこと」として挙げる事が出来るだろうが、前に本欄で紹介した、400冊ちかくもの著作がある養老孟司先生は、それを環境問題だと断定した。

何千万年、何億年もかけて大自然がこの奇跡の命の星地球につくり出した生態系、ほくが小学校低学年の頃までは堺市のような都会でも蝶やトンボ、カエル、てんとう虫、ザリガニ、カナブン、コオロギ、カマキリ、カタツムリなどなど色んないきものがうじゃうじゃ居て、夏休みの宿題といえはほとんどの生徒が大きな箱いっぱい昆虫を並べるのが定番だった。

今はその宿題は出来ない。これは、宇宙史的な犯罪であり、とつても真剣に考えるべき問題だ。

環境や生態系の問題を考えるにあたっては、ヒトといきものとがどんな風に関わって来たかを一瞥するのが最適。

そして、その関連の著作でいつもとっても面白い視点と話題を提供してくれているのが、今回紹介しているデズモンド・モリスである。図版多数で古代エジプトの猿神、日本の三猿文化や宇宙飛行士としてのサルの話など古来のヒトとサルとの深いつながりを改めて確認させてくれる本。一読を強く、おすすめしておく。

サルが見下ろす この星の玉 闇深し
響太郎

(総合経営学部 教授 下山 晃)



『旅人—ある物理学者の回想—』

(角川学芸出版, 2011.1)
湯川 秀樹 著

今秋も日本人のノーベル賞受賞が連日話題となったが、本書は日本人初の受賞者(1949年)湯川秀樹の自伝である。そのほとんどが理論物理学者湯川秀樹以前の小川秀樹(旧姓)少年(～青年)の回想によって構成されている。

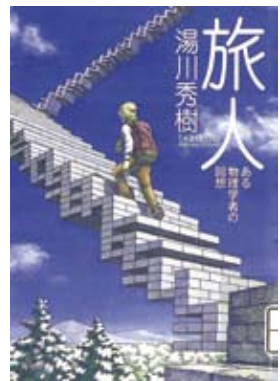
社会科学を専門に学ぶ私たちにとって、関心が最も遠い所にあるのが物理学ではないだろうか(私も高校時代に最初にお手上げになった科目が物理であった)。しかし、人間湯川秀樹は遠い存在とは思えなくなるのが本書である。小川少年は、幼い頃から数学こそ得意としていたようだが、物理学に関して天賦の才を発揮していたわけではない。儒学者を祖父に持ち、漢書の暗誦中に空想に耽ったり、哲学書を耽読し詩歌に親しむ不器用で内向的な少年期から青年期を過ごしていた

ようで、一時期父親から兄弟で只一人大学進学を断念させられそうにもなっている。そうした青少年期の哲学的思考経験の蓄積を経て、その後の理論物理学における創造的活動を導く過程が綴られている。とりわけ、理想

と現実の矛盾に苦悩し、人類や社会に対する「責任」を「無」の意識から捉える部分では、ふと現代の科学者や企業人の不正を湯川ならどう受け止めるのだろうかと考えずにはおれない。

幼少時繰り返し読み返したお気に入りの伝記が誰しも数冊はあったように、たとえ物理学とは縁遠くとも本書は大人になってからも節目節目に手に取ってみたいくなる一冊である。

(総合経営学部 准教授 河辺 純)



学生選書スタッフ 2015年度上半期活動報告

学生選書スタッフは本年度上半期、下記の活動をおこないました。「学生選書」は約100冊が選書されました。

【選書ツアー】

学生選書ツアーは半期に1度実施しています。

第1回目ツアーではのべ8名により、88冊が選書されました。



選書は「学生選書コーナー」に並べられます。人気コーナーとなっていますので、是非チェックしてみてください。

【2015年度上半期 学生選書ベストリーダー】

- 1位(9回)：時生 / 東野圭吾著 (講談社, 2005)
- 2位(7回)：金持ち脳と貧乏脳：脳とお金のた
ならぬ関係 / 茂木健一郎著 (綜合法
令出版, 2013)
- 3位(6回)：パラレルワールド・ラブストーリー
/ 東野圭吾著 (綜合法令出版, 2013)
英国一家、日本を食べる / マイケル・
ブース著 (亜紀書房, 2013)
殉愛 / 百田尚樹著 (幻冬舎, 2014)
察しない男説明しない女：男に通じ
る話し方女に伝わる話し方 / 五百田
達成著 (ディスカヴァー・トゥエン
ティワン, 2014)
How Google works：私たちの働き方
とマネジメント / エリック・シュミット
ほか著 (日本経済新聞出版社, 2014)

5月29日に実施した読書会には、発表者7名、寄稿者1名、見学者7名の参加があり、それぞれの図書が紹介されるごとに活発な意見のやり取りがありました。その模様は図書館ホームページに掲載しています。



～読書会紹介図書～

プログラムの数学 / 結城浩著 (SBクリエイティブ, 2005)

ソードアートオンライン / 川原礫著 (アスキー・メディアワークス, 2009-)

デス・ゲーム・パーク / 山本俊輔著 (泰文堂, 2010)

センス・オブ・ワンダー / レイチェル・カーソン著 (新潮社, 1996)

月をマーケティングする / デヴィッド・ミアマン・スコット著 (日経BP社, 2014)

考え・書き・話す「3つ」の魔法 / 野口吉昭著 (幻冬舎, 2009)

パレスチナ：非暴力で占領に立ち向かう / 清末愛砂著 (草の根出版会, 2006)

イワンのばか / トルストイ著 (中村白葉訳 岩波文庫, 1966)

図説世界史を変えた50の機械 / エリック・シャリン著 (原書房, 2013)

使ってみよう「My OPAC」

「My OPAC」は、図書館からのお知らせや利用状況、ブックマーク管理など、情報をまとめて閲覧・管理できる、あなた専用の個人ページです。

★利用にはパスワード申請が必要です。
(受付：2階カウンター)

メニュー画面へのアクセス

図書館サイト トップ画面より「My OPAC」をクリックすると、メニューが表示されます。



ログイン画面が表示されますので、利用者ID(学籍番号)と申請したパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。



トップ画面



1 メッセージ

予約情報、延滞情報、利用者個人宛てのメッセージなどがある場合に表示されます。



2 蔵書検索

MyOPAC画面からでも蔵書検索を行えます。



3 図書館からのお知らせ

図書館から皆さんへのお知らせを表示します。



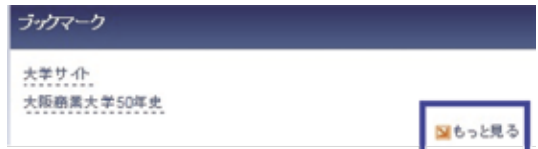
4 図書館カレンダー

開館スケジュールを表示します。



5 ブックマーク

OPACの検索結果や外部サイトをブックマークすることができます。「もっと見る」をクリックすると追加や編集を行えます。



6 外部リンク

初期設定されている関連リンク集です。



図書館インフォメーション

◆特設展示「四季を感じる本」好評展示中！

「季節」や「春夏秋冬」にまつわるテーマの作品を展示中です。

【予告】「2015年間ベストセラー」(1月より)

◆企画展示「掃除で人生が変わる…かも！？～早速トライしてみよう！！～」

2階ブラウジングコーナーで、年末の大掃除や日頃の整理整頓に役立つ図書を紹介しています。

【予告】「なぜ、その形なのか？～“もの”とデザイン～」(1月より)

◆卒業生（保護者・地域住民の方）も、図書館をご利用になれます

卒業生は登録後、無料で利用できます。公的機関発行の身分証明書および写真（横3cm×縦4cm）をご持参下さい。定められた範囲での閲覧・貸出・所蔵資料の複写が可能です。申込先は2階受付です。

※ 写真は当館で保管させていただきます。卒業生以外の方は上記と併せ、利用登録料1,000円が必要です。

2015年度 図書館開館カレンダー

12 月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
		○	○	○	○	△
6	7	8	9	10	11	12
☆	○	○	○	○	○	△
13	14	15	16	17	18	19
☆	○	○	○	○	○	△
20	21	22	23	24	25	26
☆	○	○	☆	△	△	休館
27	28	29	30	31		
休館	休館	休館	休館	休館		

1 月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
						休館 休館
3	4	5	6	7	8	9
休館	休館	△	○	○	○	△
10	11	12	13	14	15	16
☆	☆	○	○	○	○	休館
17	18	19	20	21	22	23
休館	○	○	○	○	○	○
24	25	26	27	28	29	30
☆	○	○	○	○	○	○
31						
☆						

2 月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	○	○	○	○	○	△
7	8	9	10	11	12	13
休館	△	△	△	休館	△	△
14	15	16	17	18	19	20
休館	休館	△	△	○	○	○
21	22	23	24	25	26	27
☆	○	○	○	○	○	○
28	29					
☆	○					

3 月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
		△	△	△	△	△
6	7	8	9	10	11	12
休館	△	△	△	△	△	△
13	14	15	16	17	18	19
休館	△	△	△	△	△	△
20	21	22	23	24	25	26
休館	休館	△	△	△	△	△
27	28	29	30	31		
休館	△	△	△	△		

○: 8:00～22:00(平日 20:00以降2階のみ) △: 9:00～18:00(土曜)
 ○: 8:00～22:00(ウォーミングアップ週間(授業・試験の準備期間)) ☆: 9:00～18:00(2階のみ)(日・祝)

上記以外にも臨時休館日を設ける場合があります。開館日程および時間は変更されることがあります。詳細は図書館1階掲示板・館内配布チラシ・ホームページ等でお知らせ致します。